

2 21世紀を拓く未来型学力

1. 21世紀の教育に求められるもの

- (1) 共に生き、お互いを生かす力…「奪い合えば不足するけど、分かち合えば足りる」

戦争と競争の20世紀をへて、21世紀は平和と地球環境保全、多文化・多言語・多民族共生の時代。ちがいを受け容れながら協力して道を拓いていく時代です。

- (2) 対話と探究の力…「雄弁は銀、沈黙は金、対話はダイヤモンド！」

この新しい時代を切り拓く子どもたちに必要なのは「対話」と「探究」です。集めた情報を駆使してねばり強く考え抜き、協働して問題を解決する力です。

- (3) 生涯にわたって学び続ける力…「自立とは自ら学び続けていくこと」

人間の脳はどんな時も休みなく学習を続けています。このがんばり屋さんの脳と上手につきあって活性化させながら、生涯にわたって学び続けることができるようになるのが自立するということです。その秘訣は、「感動、発見、貢献」にあります。

2. 未来型学力は4つ葉のクローバー

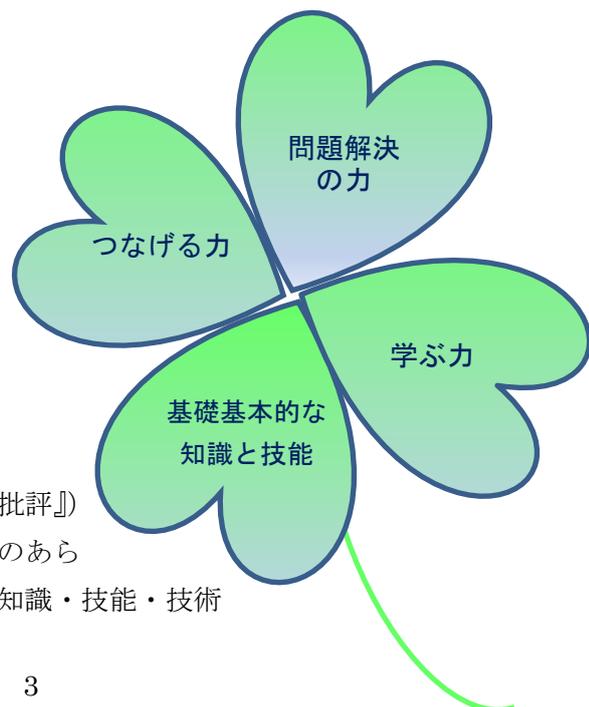
- (1) 私たちが「未来型」と表現するのは、どんなに時代が不透明でも

未来を生き抜いていくための学力（＝未来に学び続けていく学力）だから
未来をよりよく変えていく学力（＝未来を切り拓いていく学力）だから
今はまだつぼみでも必ず未来に花開く学力（＝未来に育つ学力）だから

- (2) 未来型学力を構成する4つの力

I. 基礎・基本的な知識と技能

- ① 全体の調和を生み出すモト。
進化の種。
- ② 生涯にわたる学習の土台
* 言語の活用、抽象的シンボルの活用、科学的探究の経験、社会的認識と公正の倫理、労働と技術の経験、芸術の享受と表現、身体の運動と経験（佐藤学『カリキュラムの批評』）
- ③ 基礎：子どもの現在および将来のあらゆる生活に必要とされる知識・技能・技術



基本：教科に対応する学問・文化領域でより高度な知識を構成するための土台

※「基礎基本とは、次のステップ（活用、深化、発展）に向かって、また他の領域に向かって開かれていなければなりません」（2009. 7. 28 校長）

II. 学ぶ力

① 自分の学習を自分でコントロールする力

- ア 自分で目標を立てて、
- イ 目標を達成するための計画をつくり、
- ウ 工夫しながら学習（や練習）を進め、
- エ うまくいかないときは計画ややり方を変更したり手直しし、
- オ 学習（や練習）の成果と問題点を自分でチェックし、
- カ 次の目標を立て、計画をつくる

（2009. 4. 13 「新しい評価の成功のために」 校長）

② 「学ぶ過程で獲得した諸能力の総体」

*興味、好奇心、思考力、知的探究能力…

③ 5つの情報操作活動（に習熟すること）

- S 探索 (Searching)
- M モニタリング (Monitoring)
- A 組立て (Assembling)
- R リハーサル (Rehearsing)
- T 翻訳 (Translating)

※参考

* 「学習とは自ら『問い』を立て、その『答え』を得るためにするものであり、そのために教師や様々な資料の助けを必要とするのである。そのような自然な学びのプロセスからはずれた学習は、子どもの自発性、自律性を育てることはできない」（佐藤広和『生活表現と個性化教育』青木書店、1995）

* 「コンピテンス、自律性、関係性に対する基本的要求が満たされている時、学習過程に内発的に動機づけられ、積極的に関与することが人間の本質である」（ジーマーマン『自己調整学習の理論』北大路書房、2006）

* 自己観察、自己判断、自己反応（バンデューラ、1986）

* メタ認知、協同性、学習意欲、好奇心、効力感（2009. 7. 28 校長）

* 「学力の三層構造」…学んだ力、学ぶ力、学ぶ意欲

柴田義松『学び方の基礎・基本と総合学習』（明治図書、1998）

III. つなげる力

- ① 学びは、つながりの中で成立する
(人のつながり、既知と未知のつながり、異分野間のつながり)
- ② 学びとは、新しいつながりを発見すること
(知識や技術の新しい連結や再構成)
- ③ 学びによって、脱自己中心性が進み、他の見方ができるようになることで、それまでの自分の考えを見直し、他者の視点を取れるようになる。それによって、他者とつながり、協働する力が育つ。

※参考

*学びを育てるのは人間関係

(仲間、教師、親らのモデリングや支え、援助)

*「読み」の力、「書く」力の大切さ

(ブルーアー『授業が変わる』北大路書房、1997)

IV. 問題を解決する力

- ① 「問題の状況が、第1に、現実のものであり、第2に、解決の道筋がすぐには明らかでなく、第3に、ひとつのリテラシー領域内には限定されない場合に、問題に対処し、解決する能力」(『未来型学力に挑む』第一次答申、P. 16)
- ② 「問題とは…現在の状況と、解決(目標)との間の不一致の状態」
問題解決の構成要素は、
ア 目標がある、
イ 障害がある、
ウ 解決するために利用できる方略がある、
エ どの方略を使うか(の判断)に影響する他の資源(知識やほかの人)がある、
オ 結果を評価する(される)
(ガートン『認知発達を探る—問題解決者としての子ども』北大路書房、2008)

※参考 — 「問題」の4つのタイプ

ア 真理問題(真理を探究する課題)、

イ 調整問題(利害や理念を調整する課題)、

ウ 当為問題(あるべき状態にもどす又は正す課題)、

エ 計画問題(到達すべき状態への構想を立てる課題)

(藤田英典『教育改革』岩波新書、1997)

わたしが両手をひろげても、
お空はちつともとべないが、
とべる小鳥はわたしのように、
地面をはやくは走れない。

わたしがからだをゆすつても、
きれいな音はでないけど、
あの鳴るすずはわたしのよう
たくさんうたは知らないよ。

すずと、小鳥と、それからわたし、
みんなちがつて、みんないい。

金子みすゞ

「わたしと小鳥とすずと」